

平成27年

季刊

夏季号

Vol.54

# 亞東



講演 参議院議員 島尻安伊子先生



一般社団法人亞東親善協会

The East Asian Friendship Association

## 一般社団法人亜東親善協会の概要

名称 一般社団法人亜東親善協会

(英名 The East Asian Friendship Association)

事務所 東京都千代田区平河町二一七―五 砂防会館四階

(必要に応じ支部を設ける)

目的 会員相互の親睦並びに我が国とアジア諸国との

経済、文化の提携、交流を通じ、友好親善の増進を図る。

## 事業

① 我が国とアジア地域諸国との政治、経済、文化に関する調査研究及び講演会、研究会の開催並びに研究資料の出版

② 我が国とアジア地域諸国との文化、芸術の相互の紹介

③ 我が国とアジア地域諸国との経済協力の推進に必要な情報の収集及び斡旋

④ 我が国に在住するアジア地域諸国民の生活相談

⑤ アジア地域諸国からの在日留学生にたいする進学の斡旋

⑥ その他本会の目的を達成するために必要な事業

## 亜東親善協会の変遷

社団法人亜東親善協会は、民主主義と自由経済を信条とするアジア人同志の交流を深める目的で一九四九年 東京に設立された『華南倶楽部』が発祥です。第二次世界大戦後の激動の時代でしたが、会員はひたすらアジアの平和と繁栄を希求し、友愛と信義を基調とした国際関係の樹立に努力を続けて参りました。その結果、この趣旨に賛同する有識者が次第に増加し、活発な活動とともに組織拡大の一途を辿りましたが、一九七二年の日中共同声明は、アジアの政治情勢のみならず、在日アジア人の日常にも大きな変化をもたらしました。

その前年即ち一九七一年、千葉三郎先生(衆議院議員)は、倶楽部を強化発展させる必要を痛感し、岸信介先生、福田赳夫先生、灘尾弘吉先生らと諮り、留日華僑有志の方々が協力され、自ら発起人となり同年五月二十九日外務省認可『社団法人亜東親善協会』を設立致しました。

千葉先生の引退後、原文兵衛先生が参議院議長の要職のまま会長に就任され、その後、永年衆議院で活躍された藤尾正行先生が会長を引き継がれ、二一世紀の幕開けとともに玉澤徳一郎先生が会長を務められました。

日本を含むアジア諸国は、世界の経済に大きな影響を与える程に成長しました。かかる情勢の中、二〇一二年五月、元内閣総理大臣安倍晋三先生を会長にお迎え致しました。同年一月安倍政権が発足、会長の内閣総理大臣復帰に伴い退任されました。

二〇一三年二月、安倍会長の意を受け、会長代行・大江康弘参議院議員が会長を引き継がれ就任されました。現在、領土問題等の紛争、北朝鮮の核問題、発展に伴う水・エネルギー環境問題なども山積しております。

アジアの繁栄と平和に貢献するために、本協会員一同、役員陣容を強化し、新会長のもと、叡智を結集し努力を続けております。

季刊「亜東」平成二十七年 夏季号・目次

一般社団法人亜東親善協会・概要・変遷	二頁
目次・協会役員名簿	三頁
関西にも協力の広がり	四頁
孫中山先生と南方熊楠	六頁
『いらっしま』	八頁
金沢で全国日台国際交流大会を開催	一〇頁
緊張する南シナ海と台湾	一〇頁
講演録	一〇頁
「沖繩振興について 台湾との関係の中で」	一二頁
平成二十七年第三回通常総会終了の報告	一九頁
暑中見舞い広告	二三頁
新入会員のご紹介	二七頁
平成二十七年事業計画	二七頁

平成27年5月14日現在

### 一般社団法人亜東親善協会役員名簿

名誉会長 (理事以外)	1名	玉澤徳一郎						
参与 (理事以外)	1名	橋本 靖男						
会長 (代表理事)	1名	大江 康弘						
副会長 (理事)	4名	張 建国	張 碧華					
		山本 順三	千葉 健司					
専務理事	1名	崎谷 秀彦						
業務執行理事	4名	張 建国	(副会長兼務)					
〃		赤松 則宏						
〃		藤山 雅康						
〃		池本 好伸						
理事	18名							
小松 省二	仲谷 俊郎	新井 秀子	南部 晴彦	益山 茂	松永理恵子			
多 忠和	三浦 信行	並木 正芳	伊野 雅晴	柴田 徳文	山口 裕志			
森 康郎	笹岡 恭亮	矢野 哲朗	鶴保 庸介	永島 剛士	小山 博史			
監事	2名	李 ハロルド	鈴木 慶一					
事務局		崎谷 秀彦						
		李 孔曉						

一般社団法人 亜東親善協会

## 関西にも協会の広がり

会長 大江 康弘

暑中お見舞い申し上げます。  
暑さ厳しい毎日ですが皆さんお元気ですか。今年も早いもので、もう半分以上が過ぎました。日々の早さを感じるのも年のせいでしょうかね。

さて、それぞれの会員の皆さんの日々の、ご努力のおかげで日・台関係は順調に進んでいます。以前にも申し上げましたが、皆さん一人一人が「民間大使」として、すばらしい役目を果たしていただいているおかげです。



蔡 明耀 所長

私も先日、中華民国大阪領事館の蔡 明耀総領事のご招待で楽しい懇談の時間を持つことができました。当日は永年の友人である吉本興業の末成 由美さん、桂さん枝師 匠、内場勝則さんにも同行いただき、又、三・一一の東日本大震災の復興の時に中華民国・台湾と日本の信頼関係をより一層深めていただき、大きな成果



大阪中華総会 会長  
洪 勝信

地元の和歌山県からは畑野富雄 橋本商工会議所会頭はじめ関係者の皆さんも遠いところ参加していただきました。

橋本市は高野山のふもとであり玄関口でもあります。今年高野山開宗一二〇〇年で大変多くの観光客や参拝客が訪れています。その中でも台湾からの観光客も多く、もっと来てもらおうと今、南海電鉄とタイアップしてキャンペーンをしています。又、その台湾からの観光客を来年のNHK大河ドラマの真田幸村の縁の地、九度山町まで足を延ばしてもらおうと藤田正良 前町議会議長も出席し多に宣伝をしていただきました。

話は元に戻りますが、先ほどの溝畑長官が果たしていただいた、大きな仕事を少し説明させていただきます。あの辛かった三・一一の大震災の時、どこよりも力強い支援をしてくれたのが中華民国であります。我々にどれほどの勇気と生きる力を与えてくれた事か！今でも日本人 一人一人の心に

を残していただいた国土交通省 観光庁初代長官 現大阪観光局の溝畑 宏局長にも ご一緒いただきました。

そして、私の

残っています。その復興過程の中で、大震災の年の八月に中華民国・台湾の復興航空が被災地を勇気づけようと東北三県にチャーター便就航を決定してくれました。

その時、中華民国駐日大使館から私に「どうしても、観光庁の長官に台湾へきていただきたい」との申し出があり、早速、私自身いろいろと働きかけをし、もちろん当時の溝畑長官にもお願いに行きました。只一つ大きな問題は、ご存知の通り、日本はいまだに大陸中国に気がねし、又、圧力もあり、政治家のトップや行政関係者のトップの相互の訪問は実現していません。本当に情けない話であり、我々としては、中華民国に対して大変申し訳ない想いがあります。もちろん観光庁のトップが行くことには大変な抵抗がありました。しかし溝畑長官は「日本は台湾の皆さんに復興において多大なご尽力をいただいているし、長い歴史の中で、すばらしい信頼関係をお互いに築いてきた。その国が更に今の日本を元気づけてくれるためにチャーター便を飛ばしてくれる」という事ならば、私が直接出向いて御礼を申し上げたい」と



大阪観光局  
溝畑 宏局長

言って、私と一

緒に台北に行ってくれたのです。この勇氣、そしてトップリーダーとしての決断に私は心を打たれました。

もちろん、中華民国政府や関係者の皆さんにも喜んでいただき、溝畑長官のおかげで日・台関係の信頼の絆は更に強くなったのです。本当にありがたかったです。

以来、溝畑長官とは今日まで良き友人としてお付き合いをいただいて参りました。そして今回、蔡総領事から、あらためて溝畑局長に御礼を言っていたら、今後は両国のインバウンド・アウトバウンドの増加に力を入れていただけるとの決意表明もあり、同時に、大阪中華総会の洪里勝信会長も両国の友好親善を民間の立場から更に広げていこうとの決意が述べられ、本当に有意義なお互いの友情をあらためてしっかりと確認できた懇談会でした。

謝詞



## 孫中山先生と南方熊楠



田辺市長 真砂 充敏

この度は貴誌に寄稿する機会をいただき、光栄に存じます。

田辺市は和歌山県の南部の中心都市で、世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」でも中心的な熊野本宮大社、熊野古道中辺路を有する歴史ある市です。また、温暖な風土や豊かな自然に恵まれ、日本のナショナルトラスト運動の先駆けとして有名な天神崎を含む海岸線一帯が、今夏に「吉野熊野国立公園」に編入される等、風光明媚なまちでもあります。

今回は、「国父」と呼ばれる孫中山先生と、田辺市の偉人、南方熊楠翁についてご紹介させていただきますたく存じます。（失礼ながら、以後慣例に従って、お二人を、孫文、熊楠と表記させていただきます。）

田辺市で三十七年の後半生を送った熊楠は、博物学、宗教学、民俗学における近代日本の先駆者の存在であり、同時に植物学、特に菌類・変形菌類・地衣類・蘚苔類・藻類の日本における初期の代表的な研究者です。また、明治政府の神社合祀政策に反対し、「エコロジー」という言葉を使って自然保護活動を行ったことから「エコロジーの先駆者」とも呼ば

れています。

熊楠は、東京大学予備門（現・東京大学）中退後、一八八七年に渡米、次いで一八九二年からはイギリスに渡り独学を続けました。翌年、大英博物館の東洋関係文物の整理に携わるとともに、科学誌『ネイチャー』に「東洋の星座」を発表、以後生涯で五一本の論文が掲載されます。

広州起義に失敗した孫文がロンドンに亡命中の一八九七年三月一六日、二人は出会いました。場所は大英博物館東洋図書部長のダグラスのオフィスで、このとき、「一生の所期は」と問いかけた孫文に対し、熊楠は「願わくはわれわれ東洋人は一度西洋人を挙げてことごとく国境外に放逐したきことなり」と応じた、という逸話が残っています。意気投合した二人は短い期間ながら親交を深めます。

また、熊楠は、日本での支持者を増やすことに腐心する孫文に、元紀州藩主徳川頼倫をはじめ、渡英中の紀州藩出身の官僚、政治家を紹介する一方、政治家や軍人等の有力な知人への紹介状を手配しました。同年六月末、孫文は熊楠の日記とサイン帳に「海外逢知音」と記し、ロンドンを後にします。一九〇〇年に帰国した熊楠は、旧知の福本日南から、孫文が横浜で亡命中であると知らされ、書信を認めます。孫文は再会を望む返信を出しますが、家を離れることの多かった熊楠から返信は届かず、約二ヶ月後、孫文は改めて書信を出した上、返信を待たずに和歌山を訪れます。一九〇一年二月

一四日、二人は和歌山市の熊楠の実家、和歌浦の料亭、孫文の宿所と場所を移しながら歓談し、翌日に記念写真を撮影し、熊楠は孫文の出立を見送りました。横浜に帰った孫文は直ちに犬養毅に熊楠を紹介する文を認め、熊楠に送りました。「君、名利に心なく、志を学に苦しめ、独立特行、十余年一日の如し。誠に人の及ぶべきにあらざるなり」と。

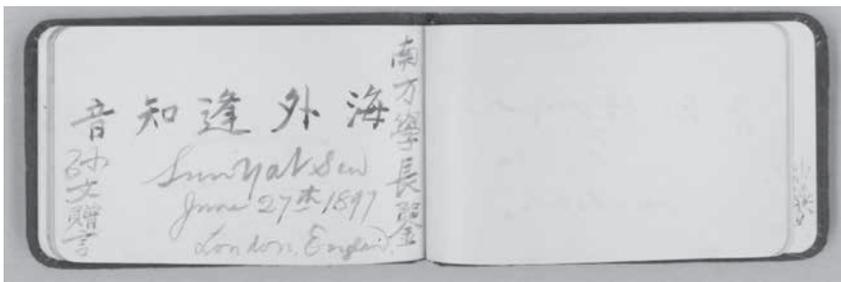
この紹介状は、熊楠宛孫文書簡八通、「海外逢知音」と記したサイン帳、記念写真とともに、田辺市の南方熊楠顕彰館に大切に保管され、企画展等を通じ、二人の交流を紹介しています。

その後、一九一三年「全国鉄道総弁」として来日した孫文が、熊楠との会見を望みましたが、実現しませんでした。一九〇一年以後再会のなかった二人ですが、孫文没後の一九四一年四月一〇日に「大英博物館とおぼしきところに孫文キャブのり来たる」夢を見えています。熊楠が没する八ヶ月前のことです。青年期に会った孫文は、熊楠にとっても、孫文の親筆のとおり、終世忘れることのできない「知音」であったのでしよう。

孫文と熊楠の交流を通じ、皆様方と田辺市が繋がっている僅かながらのご縁をご紹介させていただきます。

二〇一六年には孫文生誕一五〇周年を迎えますが、田辺市の南方熊楠顕彰館でも、皆様をお迎えできるよう孫文やロンドンテーマとした企画展を検討しています。

最後になりましたが、貴会のみまますのご発展と日台のさらなる交流促進をお祈り申し上げます。



孫文親筆「海外逢知音」



1910年2月の再会のときの記念写真（南方熊楠顕彰館蔵）

『いらっしま』

## 金沢で全国日台国際交流大会を開催

金沢市日台親善議員連盟 会長 安達 前

なぜ金沢で？と思われる友好団体関係者もおられると思います。日台交流に関心をお持ちの方なら、台湾の烏山頭ダムを建設した日本の土木技師、八田與一先生をご存じでしょう。台湾の嘉南大圳の大地を実り多くの農地とした八田技師は台湾の方々の尊敬を集めており、今もその御恩を忘れてはいないでしょう。八田技師の生まれ故郷である金沢を日台交流の絆として知っていただきたく、今夏、金沢にて「日台交流サミット in 金沢」を開催いたします。同時に、この大会を通じて、交流する地方議員による全国議連が設立される機会になればと考えております。

八田與一技師、そして八田技師と同時代に台中で通水導水管を建設した磯田謙雄技師も金沢出身であり、現地では今でも白冷圳通水記念式典が行われ、八三年間に至っております。

なぜ金沢でとの思いの一つには、私の日台交流の原点となる台中市（旧豊原市）とおつきあいがあります。二〇〇〇年に初めて豊原市に訪問する機会がありました。当時の豊原市長の張溢城氏からのお招きで、金沢市と豊原市との交流協定への働きかけでもありました。これまで金沢市と外国との姉妹都市は七カ所あり、私も議員としてそれぞれの都市と交

流させていただきましたが、台湾での交流では、これが本当の姉妹関係なのだと感じるほど親日的な歓迎を受け、感動した次第であります。また、当時の台中県知事の寥了以氏ともお逢いでき、氏の祖母が金沢出身とお話をいただき、より密接な関係をつくるきっかけとなり、それ以来大親友として今日までお付き合いさせていただいております。氏はその後、台湾政府の内政部長、国民党幹事長、さらには亜東関係協会会長と要職を歴任され、現在は中国信託銀行執行役員として活躍しております。

今回、大江会長のご配慮で会報に原稿を出す機会を与えていただき感謝しております。大江先生とは何度もお会いすることがあり、私どもの金沢での大会にご協力をお願いいたしましたところ、いろいろご心配もいただき、助力を賜りましたことを大変喜んでおります。大江先生の行動力は大変素晴らしい、日台交流活動のまさに中心的な存在であり、いずれは国の政治の中で思いっきり活躍される人物と思います。是非応援させていただきたいと思っております。

つい先日も台湾の亜東関係協会の李嘉進会長が金沢にいられて、関係者一同歓迎をさせていただきました。懇談の中で、現在、台北―小松間の航空便の利用者の割合は、台湾人が七割で、日本人が三割にとどまっていることを知り、改めて、我々の活動を日本人に知ってもらうことが大事であると感じました。

私は、日台交流サ

ミットin金沢が国交を超えた地方交流樹立の出発点になればと念じております。是非とも八月八日には、北陸新幹線開業で東京から二時間半で結ばれた金沢へお越しくださいとう、お待ちいたしております。

会員の皆様のご健勝、大江会長のさらなるご活躍を祈念いたしております。

# 日台交流促進誓う

## 台湾の垂東関係協会長 八田技師生家など訪問

台湾の対日交流窓口機関「垂東関係協会」の李嘉進会長ら5人は10日、台湾の水利事業に尽くした八田與一技師の生家や、技師の母校である花園小を訪れた。一行は八田技師の足跡や、技師を縁とする石川と台湾のつながりを確認し、一層の交流促進を誓った。



今町にある八田技師の生家では、技師の兄の孫である八田守さん(66)や住民らが出迎えた。李会長は生家を訪れた一行に「今町」



の仏壇に手を合わせ、守さんと妻章子さん(68)に「八田與一技師の家を守ってください」と語りかけた。李会長は「恩返しをしたい」という気持ちがある。将来、皆さんが台湾に訪れることを楽しみにしています」と呼びかけた。谷本正憲知事は、石川と台湾の交流促進を申し合わせた。ANAクラウンプラザホテル金沢で開かれた昼食会では、日台友好促進県議会議員連会長の中村勲県議会議長、福田太郎市議会議長、安達前市日台親善議員連会長、長井監督県日華親善協会長の2人と懇談した。

## 台日交流発展に期待 窓口機関トップが知事訪問



「石川の名は台湾でよく知られている」と話す李嘉進会長(右)と県庁で

台湾の対日窓口機関、垂東関係協会の李嘉進会長らが10日、県都府訪問の一環として、谷本正憲知事と懇談した。県によると日台の地

は小松ー台北便の乗客の七割が台湾人、三割が日本人だとし、「早く五対五にしたい」と話した。

### 知事日誌 (10日)

【午前9時30分】産後知事室。10時15分、知事控室で垂東関係協会の李嘉進会長、小松ー台北便のデリー化に合わせ、台北野で開かれた真つ青会(真つ青会)の代表者らと懇談した。李会長は、知事を歓迎して台湾が繁栄を遂げていることと、おかげで頭を下げましたと、感謝の言葉を述べた。李会長の筑波大学院在籍時期と谷本知事の茨城県庁出向時期が重なることから、筑波の話題になり、「太っぴ、そっぴ、べ」と披露する50分、県庁発

台湾の垂東協会会長 八田技師の生家へ 訪る金沢入り  
台湾の対日交流窓口機関「垂東関係協会」の李嘉進会長ら5人が10日、県入りし、谷本正憲知事と懇談する。一行は台湾の水利事業に尽力した八田與一技師の生家や母校花園小、金沢ふるさと偉人館を訪れる。李会長は10日朝に北陸新幹線で東京から金沢駅に着き、谷本知事と懇談後、八田技師ゆかりの地を視察する。北陸新幹線で富山、長野両県知事も訪問する。垂東関係協会は国交がない日台間で事実上の外交機関に位置づけられ、会長は大正時代に、会長の入りは2012年、祖母が金沢出身の慶了、以元会長以来3年ぶりとなる。

## 緊張する南シナ海と台湾

本会副会長 張 建国

今、南シナ海をめぐる、中国とベトナム、フィリピンなど周辺諸国、そしてアメリカとの緊張関係が話題になっているが、何故か日本のメディアが触れないのが、この問題に関する台湾の立場である。この機会にぜひとも日本の皆様を知っていただきたいと思い、寄稿いたしました。南シナ海に位置する南沙諸島〔Spratly islands〕、西沙諸島〔Pratael islands〕の領有権を中国とベトナムやフィリピンなどの周辺諸国とともに、台湾が領有権を主張していることは、時々メディアでは報じられているが、実は、南シナ海における最大の島を歴史的に長期間にわたって実効支配しているのは中



華民国台湾だということとは、日本では何故か報じられていない。先ず、歴史的な経緯を見てみよう。南沙諸島と西沙諸島は一九三八年二月二三日に日本が閣議決定により領有を宣言し、日本の植民地であった台湾の高雄市の行政管轄とし、当

時、南沙諸島は日本では新南群島と呼称していた。第二次大戦の終結とともに、一九四五年に中華民国は南沙諸島、西沙諸島の主権回復を宣言している。その後、第二次大戦の戦後処理において、日本はサンフランシスコ講和条約において、日本が連合国に対して放棄した旧日本領土の一覧の中に西沙諸島と南沙諸島〔新南群島〕が記されているが、同時にサンフランシスコ講和条約の発効日である一九五二年四月二八日、日本と中華民国の間で締結された日華平和条約において、日本が中華民国に対して放棄した旧日本領土の中に、台湾、澎湖とともに西沙諸島と南沙諸島〔新南群島〕が明記されている。中華民国の立場からすれば、一九四五年に主権回復を宣言し、日華平和条約に明記されていること、更に、終戦以前の台湾の高雄市の行政管轄として旧日本領であった西沙諸島と南沙諸島〔新南群島〕の全域が、終戦とともに中華民国に帰属することとなった。したがって、中華民国台湾が領有を主張している範囲は、終戦以前に日本が領有を宣言していた地域のすべてであり、現在、中国が主張している西沙、南沙を含む南シナ海全域におよぶ九段線の領域とほぼ同じで、中国、ベトナム、フィリピン、マレーシアが現在実効支配している島や岩礁を含んでいる。中華民国は戦後、南シナ海の主権回復を対外的に宣示するため、早い時期から南沙諸島および香港の南方三五〇kmに位置する東沙諸島〔Pratas islands〕に軍を駐留させ、南沙諸島については、南沙最大

の島である太平島に軍を駐留させている。太平島には長さ一五〇mの滑走路があり、二〇〇八年には陳水扁総統が島を訪問した。一九七〇年代までは、南沙の他の一部の島にも駐留していたが、台風の影響により撤退したため、現在、南沙諸島については太平島のみ実効支配下にある。又、東沙諸島については全域を実効支配しており、その最大の島である東沙島には滑走路があり、国家公园にも指定され、時々、内外のメディアにも公開されている。東沙諸島も終戦までは日本の支配下にあつたが、日本領としては編入されていなかったため、終戦とともに中華民国が領地回復、戦後一九四九年以前は広東省の管轄とし、その後は台湾の高雄市の管轄とした。西沙諸島については、目だつて大きな島嶼が無いことや、台湾からの距離が遠いため、領有権は主張しているが、実効支配している島や岩礁は無い。南沙諸島に話を戻すと、南沙諸島は、現在、ベトナム、フィリピン、マレーシア、ブルネイ、そして中華民国台湾と中国が領有権を主張しているが、それぞれの国の主張する領有権の範囲は同じではなく、複雑にからみあつている。南沙諸島全体の領域は、南シナ海の南半分の全域に及び、その面積は日本の国土より広く、ここに一八の島、岩礁、砂洲が点在し、その中で最大の島である太平島を中華民国台湾が実効支配、又、ベトナムとフィリピンが各々数個を、マレーシアが二個、中国が二個、実効支配し、これに加えて、干出岩と呼ばれる干潮時に海面上

に出現する浅瀬や砂洲が多数存在し、これらの浅瀬にも中国やベトナムなどが軍隊を派遣し占拠している。国際海洋法条約によれば、島には領土、領海、接続水域、排他的経済水域が存在するが、岩礁や砂洲には排他的経済水域は有しないとされている。問題はどこまでが島なのか、ということだが、日本は沖の島島に領海、排他的経済水域、大陸棚を設定しており、島の定義の解釈が難しい。干出岩と呼ばれる浅瀬は、国際海洋法上、領土とは認められないものの、自国の排他的経済水域内にある干出岩にはその国が建造物を建設することが認められている。南シナ海の領有権問題が注目されるようになったのは国際海洋法条約が採択された一九八二年以降のことであり、昔は無人の孤島に対して、大きな経済的メリットは無かつたが、国際海洋法条約が一九九四年一月に発効し、無人の島であつても、領土領海とともに広大な排他的経済水域が認められることとなった。海洋の権益に関する条約にはグレーゾーンもあり、複数の国の主張と実効支配地域が絡み合つている南沙諸島の問題を解決するには、関係各国による平和的な話し合いによる以外にはない。中華民国台湾の馬総統は、「南シナ海平和イニシアチブ」を発表し、関係各国による平和的合意形成、主権問題を棚上げにしての共同管理、共同開発を提唱しており、それが地域全体の平和と共通の利益につながる。南シナ海における中華民国台湾の存在について、この機会に一度提起しておきたい。

## 講演録「沖縄振興について 台湾との関係の中で」

参議院議員 島尻 安伊子先生

皆様こんにちは。本日はこのような機会を与えてくださいます。誠にありがとうございます。



大江先生とは台湾が接点でありまして、亜東親善協会さんもそうですが、日台の議員懇談会というのがあります。また、国交のない二か国ではありますが、その中で我々国会議員同志が色々な諸問題の解決に向けて仕事をさせていただいております。

大江先生とは何度も台湾に伺いました。馬總統と会った瞬間にハグをする間柄を見て、この先生はどんな先生だろうと思ったのを覚えています。

それ以来、大江先生とは御縁をいただいております。

そんな中、今回の講演の機会をいただけたことに大変、感謝を致しております。

さて、ご紹介の通り、私は沖縄選出の国会議員でございます。

実は生まれは宮城県仙台市でございます。

台湾の男性も大変お優しいと思いますが、優しい沖縄の男性にくっついて二五年になります。

私は五〇歳なので、約半分は沖縄に人生を置いております。

だからこそと言っては変ですが、色々、よそ者、馬鹿者と若者はしでかすと言われていますが、私はよそ者、馬鹿者は

兼ね備えておりますので、だからこそ沖縄のいろんな問題でございますが、その問題に一生懸命取り組んで、明るい沖縄づくりをしようとしております。

ただ、大変な普天間の移設問題があります。

世界一危険だと言われる普天間基地の危険除去のために辺野古崎という所を一六〇ヘクタール埋立て、普天間基地を移転させ、その後、普天間基地跡の四八〇ヘクタールを返還してもらおうとしております。

ただ、それだけではなくて、極東最大の空軍の飛行場である嘉手納飛行場以南の返還も、日米合意がなされております。

しかし、それが遅々として進んでおりません。

現第二次安倍政権になって、これはきちっと進めていこうという決意のもと、今、頑張っているところでございます。

ただ、この場で愚痴をいうのもどうかと思いますが、移設に反対の皆さんに叩かれっぱなしで、皆様の記憶にも新たかと思えますが、当時、後期高齢者の法

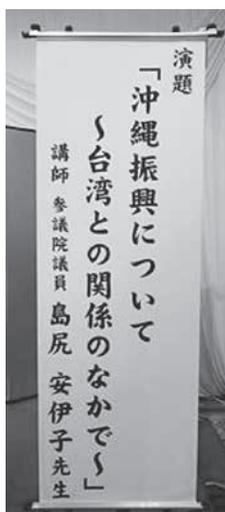


案を自民党が出して、かなり叩かれた時がございました。

あの時も、右の方に行けば右の頬を叩かれ、左に行けば左の頬を叩かれるという、とにかく、けしからんという時期がございましたが、今、沖縄に行き、「自民党」と言ったとたん十年分くらいは台風のような風圧を受けております。

やはり先程、大江先生の話にありました、我国の安全保障体制をどうしていくのか、中には我々はやはりこの法制度をしつかりやっていかなければならないと、お考えのサイレント・マジョリティーの方々も多数いらっしゃるのを肌身に感じております。

こういう皆様と今後も力を合わせて、これは沖縄だけの問題でもなく、日本だけの問題でもなく、東アジア全体の特に台湾との安全保障体制に関係することですからそれゆえに、ひるまず、この安全保障に対して取り組んで行くこうと思えます。来年の七月、我々は改選を迎えるのでありますが、後ろを振り返らず、怖がらず、県民の皆様にご理解頂くことが自分の使命として、頑張っていかなければならないと思っております。



もう一つ、基地問題で、これ程混乱していることについて、少しお話しさせていただきます

たいと思います。

第一次安倍政権の時に、日米で合意した普天間移設に関して嘉手納以南の施設を返還する。

そのみならず、沖縄にいる海兵隊員、当時およそ八千名をグアムかハワイに移すと合意もされておりました。

そこに宇宙人が現れたわけです。私は本当に宇宙から来たのだと確信しておりますが。

鳩山総理が沖縄県民に「皆さんは埋立て反対ですよね。基地は無い方がいいでしょう。それについては、私がやります。普天間の移設先は少なくとも県外に。」と宣言をしました。

我々、沖縄自民党県連としても、我国の総理大臣がそうおっしゃるわけですから、何かの腹案があるいは、なんらかのアメリカとの合意があるのだろうと思っておりました。

しかし、その一方我々自民党政権が薄紙を一枚一枚剥がすように、血を吐きながら関係者が推し進めてきた基地移転が、鳩山総理のそんな発言で崩れるはずはないと思いましたが、総理がおっしゃる以上は沖縄県民として反対することはできませんでした。

自民党沖縄県連として、これまでの決まっていた辺野古への移設移転には反対して、県外移設、あるいは国外移設ができるのであれば、たとえ、民主党という政敵の意見ではありませんが、その考えに乗ったわけです。

ということ、方向転換したのが実情であります。

そこから、二転三転して、鳩山総理は沖繩に来て、頭を下げた訳ですが、その時言ったのが「安全保障を考える上で大切な抑止力の存在意義を深く知った」「沖繩に米軍がいるのが大事である。アジアの安全保障上これは不可欠である」という言葉です。

そう謝って帰ったのですが、その後「あれは方便であった」と更に沖繩県民の怒りの炎に油を注いだのです。

誰がこの責任を負うのかという中、誰も責任を負えなくなり、そして今日に至ります。

その中であって、新知事が誕生したわけですが、これまでは自民党県連の重鎮であった方ですが、なぜか辺野古移設反対の旗頭になって、最近では宮崎駿監督や著名人が沖繩の皆様のためにとって、辺野古基金というのを作り、現在一億八千万円くらいあるそうです。

それにプロ市民運動の方も一緒にやっています。

その中で、アジアの安全保障を考えると、ここはきちっとやらなければならない、と、私も覚悟を決めてやっております。私自身も前の選挙の時も「普天間基地は県外に移転しなくてはいけない」と口にしておりますので、それを、来夏の選挙においては公約違反と叩かれると思いますが、ただ、私としては「県外」と言った時点でその十字架を背負ったものという覚悟は出来ております。

民意が怖いとか、地元の新聞は赤旗新聞以上に真赤な新

聞ですが、その新聞の論調が怖いからだとか、そういう理由で自分の信念を曲げることなく、やはり正論で今回の選挙は戦おうと思っております。

是非よろしくというか、こんな人間であるということをお見知りおき頂きたいと思えます。

さて、今日は沖繩振興についてでございます。沖繩振興は日本国民の血税が注がれ、これまで約九兆円の予算が落とされたとも聞いております。

それが本当に沖繩県民の懐に落ちているのかということはクエスチョンですが、事実として、沖繩が復帰して以来、一〇年毎の時限立法として五次に渡り、沖繩振興特別措置法という法律に基づいて予算が配分されております。

この五〇年の間に進んできたと思っております。「本土に追いつき追いこせ」を合言葉に社会資本整備が行われ、ただ、これからの課題としては、沖繩振興なので沖繩の社会資本整備経済発展を念頭にやってきたという事実はございますが、他方、厚労省、文科省が沖繩総合事務局に入っていないなかったことがございますので、その辺の政策が遅れてしまったという事実があります。

我々はこれから、この分野をどのように充実させていくのか、人材の開発、教育というのも含めて、ここをしっかりとやらねばと思っております。

さて、これまでに様々な沖繩振興策が打たれて参りました。

今一番、注目されているのは那覇空港を使つての貨物ハブ事業です。

これはすでに、ハブ空港化されておりまして、二四時間離発着可能なわけですが、ここに全日空がかなりの予算を投入しております。

当時の仲井真知事と計画したものです。

このようなANAの沖縄振興政策でありまして、例えばアジア、香港の方が、ネット上で北海道のカニを食べたいと、カニは北海道だけではなく北陸もですね：或は、大江先生の地元の和歌山の梅干しが食べたいとか注文すると、これに基づいて沖縄のハブ空港を活用すると注文した次の日には香港の方の家の食卓に上りますということが実現しました。

ハブ空港なので、夜一時から四時の間に日本各地から農産物や水産物が到着します。

そして、朝四時から六時の間に仕分けされたものがアジア各地に出発します。そうしますと、朝の八時くらいにはアジアの主要な都市に荷物が到着します。

例えば、ソウル、香港、シンガポール、バンコ



ク、もちろん台北、上海、広州、青島など、こういった所に朝の八時までには到着します。つまり那覇から四時間以内このような主要都市があるというわけです。

これは、沖縄は軍事的に重要だと言われていますが、やはり地政学上アジアに近い重要な場所だという証です。

やはりアジアへは東京よりはるかに近いのです。ですから沖縄から直行でフィリピン、マニラでも三時間で着きます。東京に向かうのと同じ時間くらいで着けるのです。

台北は一時間一〇分くらいで着きます。乗っているのは五〇分くらいだと思います。

与那国からでしたら泳いで行けますから、地理的に近いということが、地の利がこれからの沖縄振興にどれだけ寄与するかということが、おわかりになると思います。

今までの貨物は農作物が中心でしたが、携帯電話とか精密機器を修理するのは日本がいいと、日本の方が信頼できると言われ、沖縄で修理をしようというアイデアもできております。

沖縄にはフリートレードゾーンも整備されております。

例えばアジアで別の二カ国から、ある物を入れて、それを沖縄で加工し、また、別の場所に送るということをして税金がかからないという訳です。

これは、産業界にもかなり寄与できると思います。

精密機器を沖縄で作って、或は修理して、アジアに送ると

いうことが可能になるかもしれません。

雇用にも寄与するのではないかと思われます。

話は飛びますが、香港からかなり那覇の空港を使つてのやり取りも好評で、香港の税関や検閲官を沖縄に在留させると、もつと農作物などが早く送れるのではないかといわれ、一度、農水省に掛け合いましたが、やはりそれは行き過ぎだと言われたりもしました。

特区制度を沖縄が声高に叫んでいった時には、こんなことも可能になるのではないかとも思っております。

沖縄のこれからの発展には、地の利を活かしていくのが、まず第一であるということ。

ところで内閣府では、私が政務官の時に沖縄魅力発見ツアーをやりました。

この背景にあったのは沖縄の金融特区というのがあるので、これをもつともっと充実させて欲しいとの仲井真知事のオーダーがあったので、これにはどうしたらいいかと思ひ、日本の金融界を代表する方々に沖縄に来ていただき、彼方此方見てもらい、金融特区の今後の在り方に色々な意見を頂きました。

今の東京スター銀行の親会社である台湾の中国信託銀行と沖縄の地銀を繋げたらどうかというお話もあり、早速、大江先生にご相談をしました。

中国信託銀行の執行役員をご紹介いただきまして、直ぐに

繋げることができ、契約が出来たそうです。

いろんな連携がありますが、やはり金融が強くないと駄目ですよというアドバイスもありましたので、沖縄の地銀をもっと強くしなければならぬ。

沖縄には「黒船」が来ていない状況なので、地銀が外からいろんなことをシャットアウトしている状態ですので、地銀しかないのです。

ということとは、中々、地元の企業が海外や東京に進出しようとしても情報量が少ないという側面もありますので、中国信託銀行などの台湾の大手銀行と結び付きが深くなることにより、沖縄の企業が東京の企業よりも台湾に進出しやすい、そして、台湾からアジアに向けて、販路の拡大もできるのではないかと思ひます。

実は、私は中国信託銀行には大変、期待もしているし、沖縄の地銀も育てて頂きたいと思っております。

もつともっと沖縄をコアにして、本土や台湾との交流を深めていければと思います。

一つ、面白いお話を聞いたのですが、台湾の化粧品会社が、中国本土に輸出したかったらしいのですが、なんらかの壁があつてそれが出来なかつたそうです。

そこで沖縄の久米島に海洋深層水の質の良い水を使って化粧品を作っている会社があるのですが、台湾の企業がその沖縄の企業とジョイントすることにより、日本の製品として中

国に送ることにしたら、スムーズに輸出できることになった  
そうです。

これをモデルケースとして、沖縄をクッションにして様々  
な商品を中国大陸に輸出することも可能かと思えます。

色んな可能性、ポテンシャルがあるのだと思えます。沖縄  
の普天間基地のことでございますが、実は普天間基地の西側  
に兵隊の住宅地区があります。

それが四月一日に返還になりました。これが五一ヘクター  
あります。

さて、ここに何を造っていくかということですが、当時の  
仲井真知事や普天間基地を抱えている宜野湾市の市長が一緒  
になって、ここに国際医療拠点を作りたいと政府の方に申し  
出ました。

基地の跡地利用としては国が国策として責任をとるとい  
う取決めがあるので、官邸もこの問題は後押ししようとい  
う回答がありました。

国際医療拠点としても色々ありますが、沖縄には琉球大学  
という国立大学がありまして、ここをコアに医学部と病院  
を、この場所に移して、アジア全体の医療研究開発に取組ん  
でいこうという話が進んでおります。

沖縄は長寿県として有名ですが、この二〇年くらいで男性  
の平均寿命がガタッと落ちてしまいました。これまでは、一、  
二、三位をキープしていたのですが、都道府県中、いっきに

「二六ショック」という二六位まで落ちてしまいました。

その結果として、色んなことが言われていますが、沖縄と  
しては長寿県として健康を取り戻そうと、この、国際医療拠  
点をテコにして、これから頑張っていこうとしております。

面白いのが、男性の寿命は落ちていますが、女性はまだ五  
位くらいまでキープしております。

これは、女性はあまり気をつかわず生きているからではな  
いかと言われていますが、沖縄の女性は強いです。遅しいです。  
私もそんな先輩方を見習っ  
て生きていこうと思えます。

ただ、面白いのはそこも研  
究の対象となるということだ  
す。

沖縄には久米島、宮古島  
等、島が沢山あります。

人の往来も少なく、海外か  
らのDNAも入りにくいとい  
う現実があるので、今、そこ  
のデータを蓄積している最  
中です。その動きと連動し  
て、この国際医療拠点到世界  
一のビッグデータを蓄積す  
るといふ構想があります。



このビッグデータの何が世界一なのかというと、これまで米海軍において長年蓄積しておりますデータが開示されることになったからです。

これは、例えば日本だと皆保険なので全国どの病院にもかかるわけですが、これまでデータを蓄積するという概念がありませんでした。

米海軍においては、その家族さえも費用がかからず海軍病院で診察してもらえるので、家族も含めたデータが長年に渡って蓄積されているのです。

ですから、その人の病歴を追跡し、その対処も知ることができるのです。

創薬業界からは、喉から手が出る程欲しい情報なのです。

更に、海軍病院には臨床データもあります。

今後、どれだけの壮大なマーケットに広がっていくのか、想像もできません。

私としては、これを大事に進めて行きたいと思っております。

アメリカにあるマッキンゼーというコンサルがあります。が、その報告書によると今、アメリカにあるデータだけで一〇兆円に及ぶ価値があるといわれています。

そこに沖縄にあるユニークなデータをプラスするということで、医療だけでなく、いろんなところに波及していくのは間違いないでしょう。

このような観点からも西普天間構想をしっかりしていくべ

きと思っております。

この話を軍関係者とやっておりますが、今の海軍病院のトップは女性の医者であります。

この女医さんと話をして、データだけではなく医療開発などもやりたいと話しております。

沖縄をコアにして創薬を進めようという話や、更には特許料の何%かを沖縄に落とそうとか、インセンティブについても話し合っています。

行き付くところは、日米同盟の新しい在り方。

軍事だけではなく、こういった初めての「ソフトパワーライアンス」として世界へ発信していきましょう。それがアジアでの安全保障上、本当の抑止力になるのではないかとの結論に至りました。

これらを含めて沖縄がいろんな意味で「結接点」として存在していきたいと考えております。

話が色々飛びましたが、これからの沖縄発展振興について話をさせていただきましたが、何はともあれ、スーブの冷めない距離にある台湾の皆様とこれからも交流を続けていくことによって、沖縄のみならず、アジア全体についていろんなことを発信していきたいと思っております。

話は余り上手な方ではありませんが、沖縄への想いも含めてお話しさせて頂きました。

ご清聴いただきました。誠にありがとうございます。

## 平成二七年度第三回通常総会終了の報告

去る五月一四日に開催しました当協会の第三回通常総会は各位のご協力を得まして、左記の通り全議案を滞りなく承認可決致しました。

就きましては、今後とも、会員一同並びに関係各位の協力のもとに、総会決議に基づき、各種の事業活動を一段と活発に進めてまいれる所存でございます。

何卒、尚一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

先ずは、総会終了のご報告方々ご挨拶申し上げます。

### 記

(出席者) 一五九名(委任状を含む) 定款第一五条第一項の規定により適法である旨 を事務局より報告。

大江康弘氏が議長に選出され総会議事に入った。

議事録署名人選出の件について議長が計り、専務理事 崎谷秀彦氏、監事李ハロルド氏兩名が選出されました。

### (決議事項)

第一号議案 平成二六年度事業報告承認の件

第二号議案 平成二六年度収支決算報告承認の件

第三号議案 監事補充選任の件

以上の各議案について監査報告がなされ、それぞれ議案書の通り承認可決されました。

その他 報告事項

「平成二七年度事業計画」並びに「平成二七年度予算」につきましては、新法人法により理事会承認事項となり四月一四日開催の第一回定例理事会において承認されましたこと、ご報告いたします。



**正味財産増減計算書**  
平成26年 4月 1日から平成27年 3月31日まで

法人名：一般社団法人 巫東親善協会  
事業名：事業全体

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
經常増減の部			
經常収益			
受取会費	7,146,630	5,965,000	1,181,630
個人会員受取会費	5,590,000	5,615,000	△25,000
法人会員受取会費	450,000	350,000	100,000
交流活動協力金	1,106,630		1,106,630
事業収益	2,806,884	3,899,949	△1,093,065
行事関係会費	2,106,884	1,960,000	146,884
広告掲載	700,000	640,000	60,000
社会見学継続事業		1,299,949	△1,299,949
雑収益	355	359	△4
受取利息	355	359	△4
經常費用計	9,953,869	9,865,308	88,561
事業費	4,780,181	5,294,053	△513,872
行事費	2,187,696	2,388,258	△200,562
季刊巫東印刷費	782,875	561,450	221,425
講演演見学費	557,254	841,365	△284,111
交流会活動費	43,830	121,280	△77,450
管理費	1,208,526	1,381,700	△173,174
給料手当	4,864,845	4,942,759	△77,914
旅費	2,156,800	2,142,800	14,000
交通費	157,448	153,674	3,774
通信費	197,830	200,310	△2,480
事務消耗品費	237,679	265,747	△28,068
支払手数料	199,743	269,988	△70,245
賃借料	86,504	176,690	△90,186
渉外	1,441,494	1,443,864	△2,370
租税公課	304,347	216,236	88,111
經常費用計	83,000	73,450	9,550
当期經常増減額	9,645,026	10,236,812	△591,786
經常増減の部	308,843	△371,504	680,347
經常外収益			
經常外収益計	0	0	0
經常外費用			
經常外費用計	0	0	0
当期經常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	308,843	△371,504	680,347
一般正味財産期首残高	2,435,297	2,806,801	△371,504
一般正味財産期末残高	2,744,140	2,435,297	308,843
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	2,744,140	2,435,297	308,843

# 会計監査報告書

社団法人 亜東親善協会

各 会 員 殿

平成27年 4月14日

一般社団法人 亜東親善協会

監 事

李 山口 一 李

監 事

鈴木 慶一

私たちは、平成26年4月1日から平成27年3月31日迄の会計年度における  
会計及び業務の監査を行い次のとおり報告する。

## 1 監査の方法の概要

- (1) 会計監査について、帳簿並びに関係書類の閲覧等必要と思われる監査手続きを用いて計算書類の正確性を検討した。
- (2) 業務監査について、理事会及びその他の会議に出席し、理事から業務の報告を聴取し、関係書類の閲覧等必要と思われる監査手続きを用いて業務執行の妥当性を検討した。

## 2 監 査 意 見

- (1) 正味財産増減計算書、貸借対照表及び財産目録は会計帳簿の記載金額と一致し、法人の収支及び財産の状況を正しく示していると認める。
- (2) 事業報告の内容は真実であると認める。
- (3) 理事の職務執行に関する不正な行為又は法令もしくは寄付行為に違反する重大な事実はないと認める。



大野功統・元衆議院議員の乾杯の発声で懇親会が盛大に開催された



徐瑞湖・駐日代表



次代の台湾と日本の友好・親善の担い手、台湾からの留学生



今夜も見事に決まりました、張 副会長の3本締め。お陰様で総会も無事終了しました。今年1年、皆さんと一緒に日・台友好・親善の輪をさらに拡げていきたいと思っていますので又、皆さんのご協力をお願いいたします

暑中お見舞い申し上げます

平成二十七年

<p>台北駐日經濟文化代表處 代表 沈 斯淳</p>	<p>公益財団法人交流協會 理事長 今井 正</p>	<p>自民党内閣部会長 衆議院議員 秋元 司 東京都千代田区永田町二丁目一 衆議院第一議員会館五二四号室 電話〇三(三五八)五一一 (内五〇五二四) FAX〇三(三五〇八)三三三三七</p>	<p>自由民主党国会対策委員会副委員長 衆議院議員 伊東 良孝</p>
<p>衆議院内閣委員長 衆議院議員 井上 信治 東京都千代田区永田町二丁目一 衆議院第一議員会館三二七号室 電話〇三(三五〇八)七三二八</p>	<p>衆議院議員 岸 信夫 東京都千代田区永田町二丁目一 衆議院第一議員会館二〇三号室 電話〇三(三五〇八)一二〇三</p>	<p>自由民主党経理局長 衆議院議員 吉川 貴盛 東京都千代田区永田町二丁目一 衆議院第二議員会館二〇二号室 電話〇三(三五〇八)七四五</p>	<p>参議院自由民主党政策審議会会長 参議院議員 鶴保 庸介 東京都千代田区永田町二丁目一 参議院議員会館三三三号室 電話〇三(六五〇)〇三三三三</p>
<p>参議院ODA特別委員長 自由民主党総務会長代理 亜東親善協会副会長 参議院議員 山本 順三 東京都千代田区永田町二丁目一 参議院議員会館一〇一九号室 電話〇三(六五五〇)一〇一九</p>	<p>台北駐大阪經濟文化辦事處 處長 蔡 明耀 大阪市西区土佐堀一丁目八 日栄ビル四階 電話〇六(六四四三)八四八一</p>	<p>台北駐日經濟文化代表處 横浜分處 處長 粘 信士 横浜市中区日本大通り六〇 朝日生命横浜ビル二階 電話〇四五(六四一)七七三七</p>	<p>台北駐大阪經濟文化辦事處 福岡分處 處長 戎 義俊 福岡市中央区桜坂三丁目二四二 電話〇九二(七三四)二八一〇</p>

暑中お見舞い申し上げます

平成二十七年

<p>台北駐日經濟文化代表處 那霸分處 處長 蘇 啓誠</p> <p>那霸市久茂地三一五一一九 アルテレビル那霸六階 電話〇九八(八六二二)七〇〇八</p>	<p>台北駐日經濟文化代表處 札幌分處 處長 陳 桎宏</p> <p>札幌市中央区北四條四丁目一番地 伊藤ビル五階 電話〇一一(一一三二)二九三〇</p>	<p>一般財団法人台灣協會 理事長 根井 洌</p>	<p>日本國際協力財團名譽會長 元衆議院議員 大野 功統</p> <p>東京都世田谷区東玉川一―二二―一 電話〇三(三七二六)〇八八八</p>
<p>公益財団法人全日本空手道連盟 會長 笹川 堯</p> <p>東京都千代田区内幸町一―一―七 NBF日比谷ビル二F 電話〇三(五五二一)六七二一</p>	<p>金沢市日台親善議員連盟 會長 安達 前</p> <p>金沢市馬替二丁一九〇―六 電話〇七六(二九八)三五〇三 FAX〇七六(二九六)一六六八</p>	<p>中華民國留日橫濱華僑總會 會長 羅 鴻健 理監事一同</p> <p>神奈川県横浜市中区山下町一四〇番地 電話〇四五(六八一)二二一四 FAX〇四五(二〇一)二八五五</p>	<p>アジア問題懇話会 大陸問題研究協会 會長 高野 邦彦</p>
<p>学校法人 橫濱中華學院 校長 馮 彦國</p> <p>横浜市中区山下町一四二番地 電話〇四五(六八一)三六〇八 FAX〇四五(六七一)一〇七〇</p>	<p>株式会社ホテル横須賀 代表取締役 長尾 和典</p> <p>横須賀市米が浜通り二―七 電話〇四六(八二五)一一一一 FAX〇四六(八二五)一一一一</p>	<p>有後藤泌尿器科皮膚科医院 院長 後藤 康文</p> <p>岩手県宮古市大道一―三―二四 電話〇一九(六二)三六三〇</p>	<p>学校法人東京國際学園 東京外語専門学校 理事長 武田 哲一</p> <p>東京都新宿区西新宿七―三―一八 電話〇三(三三六七)一一〇三</p>

暑中お見舞い申し上げます

平成二十七年

<p>有限会社台湾新聞社</p> <p>社主 錢 妙玲</p> <p>東京都豊島区西池袋四一一九一四 電話〇三三(五九一七)〇〇四五 FAX〇三三(五九一七)〇六八六</p>	<p>有限会社沖山興業</p> <p>代表取締役 沖山 建夫</p> <p>東京都八丈島八丈町三根一八一―五 電話〇四九九六(二)〇一一一</p>	<p>株式会社和興産業</p> <p>代表取締役 千葉 祐三</p> <p>東京都文京区千石三一四一八 サンセチア文京四〇二 電話〇三三(三九四一)〇〇二八 FAX〇三三(六九〇九)七〇三九</p>	<p>協和技研メンテナンス株式会社</p> <p>代表取締役 古谷 知彦</p> <p>兵庫県志摩市中筋山手一丁目一四番地四号 電話〇七九九(八二)一八一― FAX〇七九九(八二)一八一〇</p>
<p>一般社団法人亜東親善協会</p> <p>副会長 張 碧華</p> <p>東京都千代田区外神田三二七―七 電話〇三三(三三三)五七(一)〇〇三三</p>	<p>一般社団法人亜東親善協会</p> <p>副会長 張 建国</p>	<p>一般社団法人亜東親善協会</p> <p>会長 大江 康弘</p> <p>東京都中央区銀座六一三―一六 ウォールビル五〇五 電話〇三三(六二七八)八六九〇 FAX〇三三(六二七八)八三三〇</p>	<p>友盛貿易株式会社</p> <p>代表取締役社長 鄭 尊仁</p> <p>横浜市中区太田町二一三―一 電話〇四五(二二六)二二九八 FAX〇四五(二二六)二二八九</p>
<p>あざみ野ローテニスクラブ</p> <p>代表 益山 茂</p> <p>横浜市青葉区あざみ野二一九―一 電話〇四五(九〇一)九〇一一 FAX〇四五(九〇一)二〇四一</p>	<p>一般社団法人亜東親善協会</p> <p>理事 程 金笙</p>	<p>一般社団法人亜東親善協会</p> <p>業務執行理事 赤松 則宏</p>	<p>一般社団法人亜東親善協会</p> <p>専務理事 崎谷 秀彦</p>

# 暑中お見舞い申し上げます

平成二十七年

<p>東光不動産株式会社 代表取締役 <b>山口 裕志</b></p> <p>東京都渋谷区富ヶ谷二―一―一五 電話〇三(五七九〇)五七九〇 FAX〇三(五七九〇)五七九〇</p>	<p>一般社団法人亜東親善協会 理事 <b>柴田 徳文</b></p>	<p>中華民国僑務委員会 委員 一般社団法人亜東親善協会 理事 <b>呉 淑娥</b></p>	<p>学校法人電子学園 日本電子専門学校 理事 <b>多 忠和</b> おのおのただかず</p>
			<p>株式会社永島製作所 代表取締役 <b>永島 剛士</b></p> <p>石川県羽咋市寺家町夕一番九 電話〇七六七(一一)七〇一一 FAX〇七六七(一一)七〇一一</p>

## 友情と信頼

### 一般社団法人 亜東親善協会

只今、会員を募集しております。

#### 入会の手続き

1. 事務局所定の入会申込書を提出していただきます。
2. 入会は、協会理事会の議を経て承認されます。

年会費	法人会員	50,000円
	賛助会員	30,000円
	個人会員	10,000円

## 新入会員の紹介

当協会は平成二十六年事業計画の重点課題として組織の強化及び会員の増強運動を推進、民間外交として活動を続ける協会主旨に賛同され多くの友人にご入会いただきました。

新入会員（二十六年九月二十日～二十七年七月一日）順不同、敬称略  
氏名 長野荘一、鈴江利夫、小川一也、岡崎太、小川修、佐野浩美、大江順子、大本真、安達前、吉川保雄、小山陸男、長勢達也、中田靖也、西岡利晃、平松邦夫、田尻健一、石井秀明、三宅貴司、和田天寿、古谷知彦、小林弘、若杉昌孝、花田剛史、上裕功、保田幸彦、宮山育子、齊藤政隆、青松直仁、前田浩二、曾和勝彦、千田耕次、西尾敏治、平井孝幸、保田幸彦、西出恵一、坂口秀樹、湯本良太郎、川窪仁帥、中田力、木村雅彦、弥勒多加志、林寛吉、上野寿子、曾根田たづ子、明渡恵子、角谷美智子、松井紀博、川久保隆幸、菊池三誠、井沢義武、川口和恵、池田香世子、丹羽直子、我妻治。

## 平成二七年度事業計画（平成二七年四月一日～平成二八年三月三十一日）

事業 当法人は、民主主義と自由を信条とする東アジア地域諸国（主に隣国台湾）との政治、経済文化に関する調査、研究及び講演会、研究会の開催並びに研究資料の出版、及び会員相互の親睦を図ることを目的として、その目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 我が国と東アジア地域諸国との文化、芸術の相互の紹介
  - (2) 我が国と東アジア地域諸国との経済協力の推進に必要な情報の収集及び幹旋
  - (3) 我が国に在住する東アジア地域諸国民の交流事業
  - (4) 東アジア地域諸国からの在日留学生に対する交流事業
  - (5) 季刊「亜東」として年四回（春、夏、秋、新春）発行一、〇〇〇部、会員外、関係各位に配布（観光協会、中華学校、等）
  - (6) 継続事業の推進、本件事業についてホームページ広報誌を活用し事業活動の広報に努め幅広く参加を呼びかける。
  - (7) 後援、協賛事業の推進
- 友好団体との事業（講演会、研修会など）の後援、協賛を今後とも積極的に推進して行く。
- 前各号に掲げる事業に附帯又は関連する事業を実施する。
- 各事業の詳細については都度ご案内申し上げます。

季刊 **亜東**（アジアの架け橋）平成27年 夏季号（No.54）

発行日 : 平成27年7月15日

発行所 : 一般社団法人亜東親善協会

発行人 : 大江康弘

所在地 : 〒102-0093 東京都千代田区平河町2-7-5 砂防会館4階

Tel : 03-3261-6405 Fax : 03-3556-5770

H P : atousinzen@nifty.com

印刷 : ヨシダ印刷株式会社

# 台湾の魅力を、あなたにも。 チャイナ エアライン



## チャイナ エアラインで、台湾の旅へ。

台北101や日月潭、阿里山など、見どころにあふれた台湾。  
日本から飛ぶなら、チャイナ エアラインで。行き届いたサービス、快適なひととき…。  
台湾を訪れるあなたを、心を込めたおもてなしで歓迎いたします。